

「国際看護論」の授業後アンケートにおける一考察

Discussion Based on a Questionnaire Survey Conducted Following
"International Nursing" Classes

磯 邊 厚 子 天 岡 憲 子
Atsuko Isobe Noriko Amaoka

聖泉看護学研究 第3巻 別刷

(2014年3月27日発行)

「国際看護論」の授業後アンケートにおける一考察

Discussion Based on a Questionnaire Survey Conducted Following "International Nursing" Classes

磯邊 厚子¹⁾*, 天岡 憲子²⁾
Atsuko Isobe, Noriko Amaoka

キーワード 国際看護, 学生の関心, 看護の役割

Key words international nursing, students' interests, roles of nursing

抄録

背景 新カリキュラムで統合分野に位置づけられた国際看護論は、あらゆるヘルスケアの場、地域社会での役割を学ぶことが求められている。**目的** 国際看護論の授業後アンケート結果の内容を明らかにし、国際看護の役割を改めて考察し、今後の授業実践の向上に繋ぐ。**方法** 2011年及び2012年M短期大学看護学科(3年課程)の学生108名に行った学生の授業後アンケート(関心事項及び看護の役割を自由記述)の結果を類似した内容別に整理し、国際看護に必要な視点と役割を考察する。**結果・考察** 「関心事項」は109件の回答があり、保健事情や生活、教育に関する事項が多く、「看護の役割」は110件の回答があり、疾病予防、健康教育の必要性が最も多く、看護の役割が示唆された。**結論** アンケート結果から、国際看護の役割はグローバルな視野を持ち、地域の実情に沿った相手に受け入れられる方法で協力することが重要である。また異文化の中の看護は専門職者として成長の機会といえる。

Abstract

Background In international nursing, an academic discipline positioned as an integrated field by the revised curriculum, students are required to learn the roles of nursing care in many different health care settings and communities.**Objective** We examined the results of a questionnaire survey conducted after an international nursing class to clarify the roles of international nursing and provide a basis for improving such classes.**Methods** Viewpoints required to provide international nursing and its roles were discussed based on the results of a questionnaire survey conducted following classes in 2011 and 2012, involving 108 students of the Department of Nursing of Short-term College M.**Results/Discussion** "The subjects of interest" included health care circumstances, life, and education (a total of 109 responses). "The roles of nursing care" included the necessities of disease prevention and education on health (a total of 110 responses).**Conclusions** In international nursing, nurses are required to have a global point of view and provide nursing care while taking into consideration the circumstances of the community so that it is accepted by them.

I. 緒言

国際情勢の変化、紛争や難民、国境を越えた健康問題、食料の安全性にまつわる問題など、私たちの生活はこれらの問題を避けて通ることはできなくなった。地球市民の連帯と相互依存、相互協力が求められている。一方で、地球上の約10億人が安全な水を得ることができず、年間1100万人の

子どもが5歳の誕生日を迎えることができないでいる。

看護はヘルスケアシステムの欠くことのできない一分野として、「健康の増進、疾病の予防、そしてあらゆる年齢およびあらゆるヘルスケアの場および地域社会における身体的、精神的に健康でない人々および障害のある人々へのケアを含めた全体的な看護実践領域に従事すること」とある

¹⁾ 聖泉大学 看護学部 看護学科 School of Nursing, Seisen University

²⁾ NPO ナースネット NPO Nurse Net

* E-mail isobe-a@seisen.ac.jp

(ICN国際看護協会1987). 2009年の新カリキュラムにおいても、「看護の統合と実践は・・・省略・・・国際社会において、広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができること等の内容を含む」と示された(厚生労働省, 2007). 国際看護の実践者に関して言えば、開発途上国の健康問題や、国際化に伴って生じる様々な保健分野での難題を、解決する人材として必要とされており、中でも看護の国際協力はよく知られている。

本稿では、筆者の行ったM短期大学での国際看護論の初回及び2回目の授業内容を紹介すると共に、学生の授業後アンケート結果から、改めて「国際看護」について考察し、今後の授業の充実、向上に繋がりたいと考える。

II. 方法

1. 対象者と方法

対象は2011年及び2012年M短期大学看護学科(3年課程)の学生120名である。本学では、国際看護論は2年後期に行われ、独立した科目として位置づけられている。授業(表1)の後、問1～問4の質問紙で自由記述式の半構成的アンケートを行った(表2)。問1は、授業全体を通して国際看護に関心をもてたか、問2は、授業の内容で最も関心をもったことについて、問3では、授業の内容を通じて看護がどのような役割を担うのか、問4では、将来の展望としての意見を質問した。得られた回答のうち、問2と問3は自由記述のため、授業内容を参照しつつ、類似した内容別に情報を整理し、件数の多かった内容順に沿って検討し、考察した。

2. 倫理的配慮

アンケートは授業後に行い、学生に対して、研究目的の主旨を説明した。質問紙は無記名で、結果は研究以外に使用しない旨を説明し、自由参加とした。参加を拒否した場合であっても成績には何ら影響しない旨を説明した。また参加に同意した場合であっても不利益を被ることなく撤回できることを説明した。なお質問紙の提出により調査への同意、参加を得たものとするを説明した。当研究は大阪信愛女学院短期大学及び聖泉大学看護学科の倫理委員会の承認を得ている(承認番号: 20)。

3. 授業展開

1) 授業時期及び単位: 2年後期, 30時間(1単位)

2) 授業目的及び目標

様々な国の人々の生活や健康状況を理解し、看護職にどのような役割が求められているか、国際看護に必要な視点と看護の役割を学ぶ。国際看護は国際保健に含まれると位置付け、国際保健・看護の目的及び看護活動を展開していくための方法と看護の役割を学ぶ。

3) 学生のレディネスと指導観

M短期大学は、国際化する社会に貢献する人材育成を理念に掲げている。そのため、国際看護は大学新設時から、2年後期に行う独立した科目として位置づけられている。したがって、国際的視野に立ち、人々の生活や健康ニーズを捉え、課題を認識し、解決の道筋を考えられるよう、授業案を構築した。また、健康に影響を与える様々な要因を捉えられるよう、多様な価値観と生活条件を包括した幅広い看護活動を見出せる内容とした。テキストは「国際保健・看護」(丸井・森口, 2005)を使用した。さらに資料や視聴覚教材を豊富に用いると共に、グループワークや事例検討等、授業方法を工夫した。

4) 授業の概要

授業回数と内容は(表1)である。初回は世界地図を広げ、国名や人口、気候などを問いながら、とりわけ健康ニーズの高い国に注目し、学習の動機付けを行った。資料にて平均余命、識字率、感染症などグローバルヘルスの指標の意味や用語解説を行った。また、プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの意義、ミレニアム開発目標(MDGs)と健康課題、それらの取り組みの概要を説明した。主要な課題として、母子保健と感染症をあげた。子どもの栄養不良の原因に母親の認識不足や社会的経済的理由が背景にあるなど、健康認識や生活条件を含めた生命、生存の課題に注目する必要性をあげた。また、健康教育は、住民のニーズ指向性の活動であり、住民と共に目標を設定し、ヘルスワーカー、ボランティアなど非専門職者との協働の必要性があること、識字率の低い地域ではポスターや紙芝居等、視聴覚教育が効果的であることを示した。

後半は、NGOの看護実践者により、ネパー

表1 授業回数と内容

回数	授業テーマと内容	授業方法と教材
1~2	国際保健・看護とは ・地球規模でみた人々の健康問題、各国の保健指標 ・国際保健の歴史 ・保健、看護上の課題、教育事情 他	講義、資料 世界地図、Power Point UNDP, WHO, MDGs資料
3~4	国際保健・看護の活動の場と対象 ・国、民間、国際機関、国際協力・緊急援助	講義、国際協力資料 Video, Power Point
5~6	開発途上国の健康問題と対策 ・母子保健（保健と栄養） ・感染症（呼吸器・消化器感染症、マラリア他）	講義、Power Point 母子保健、感染症資料 母子健康手帳
7~8	国際看護活動方法論Ⅰ 地域看護の視点から ・保健医療政策と制度 ・プライマリ・ヘルスケア	講義、PHC資料 Video, Power Point ポスター、紙芝居
9~10	国際看護活動方法論Ⅱ 病院看護の視点から ・病院看護の実際 ・看護活動の基本と留意点（文化の尊重、公平性、継続性） ・在日外国人への支援	講義、看護プロジェクト資料 Power Point
11~12	様々な看護活動 ・NPOでの看護活動（ネパールの障害者支援） ・看護の国際交流（デンマークの医療と福祉）	講義、NPO活動資料 Power Point
13~14	・災害看護、難民支援（UNHCR） ・事例演習 グループワーク 「M国M村の乳幼児死亡率の減少をめざして」	講義、資料、Video 模造紙、Power Point
15	・事例演習のグループワーク発表 ・青年海外協力隊の概要と看護活動体験者の報告 ・異文化体験 テレレ茶と紅茶の試飲 総括	グループ発表/質疑 Video, 体験者への質疑 茶器とテレレ茶

ルの精神障害者支援と、高福祉国である北欧の医療・福祉システムを紹介した。さらに看護の国際交流の必要性を示した。国際緊急援助では、患者の足浴から信頼関係を得た看護師の例や、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）のVTRを視聴し、主人公の示すキーワード「冷たい頭と熱い心をもて」の意味を意見交換した。在日外国人の医療では、兵庫県医療通訳研究会の例から、語学より先ず外国人を受け入れようとする姿勢が看護の第一歩だという取り組みをあげた。

最後に、「M国M村の乳幼児死亡率を減少するにはどうすればよいか」をテーマに、事例演習を行った。保健指標やインフラ状況などを提示し、どのような調査を行い、その結果からどのような支援が必要かをグループ討議し、結果を発表した。村人リレーで病人の搬送、野菜づくりや植樹、国際情報ネットで寄付を集めるなど、学生のユニークな発表があった。最終回は、

青年海外協力協会近畿支部の協力を得、看護活動経験者の体験を聴講し、意見交換を行った。

Ⅲ. 結 果

授業後アンケートに120名中、108名が回答した（回収率90%）。結果は（表2）である。問1では、100名の学生が国際看護に関心があると答えた。問2では、98名の回答者から、109件の回答があった。類似した内容を選別し1) - 13) に整理した。問3では、95名の回答者から、110件の回答があり、同じく類似した内容を選別し1) - 7) に整理した。

問2について：1), 2), 3)の計63件にみられる「保健事情、看護の内容、生活、教育、背景」について多くの学生が関心を寄せ、課題を捉えていた。少数であるが、5) 7件では「文化や価値観の違いを知る、自文化を押し付けない」等の回答がみられた。また7) 5件及び、8) 5件では

表2 授業後アンケート結果

n=108

問1. 国際看護に関心をもてましたか？	はい 100名 いいえ 8名
問2. 授業の中で最も関心を持ったことを記して下さい(複数回答で自由記述)	<p>回答98名 無記入10名 (回答件数109件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健事情29件; 医療へのアクセスが乏しい, 飢餓や栄養不良の子ども, 予防可能な疾病で死亡, インフラや衛生状態が悪い等 2) 看護業務17件; 看護業務や保健水準が国により違う, 日本との相違と類似, 看護業務の幅が広い, 子どもへの性教育, 紙芝居での健康教育, グループワークでの工夫や提案等 3) 看護の背景17件; 貧困と子どもの死亡との関連性, 紛争, 難民, 経済事情, 環境, 教育水準等 4) 難民支援7件; 住民の話をよく聴く, 実践を早く, 精神ケアが必要, "熱い心と冷たい頭"の意味 5) 文化の尊重7件; 環境, 価値観, 健康認識の違い, 自文化を押し付けない, 文化や方法を尊重等 6) 視野の広がり5件; 看護は国内外へ広がりをもつ, 草の根支援, 海外体験の必要性, 広い視野で看護する等 7) 自分が変わる5件; 相手を通して自分も変わる, 変える, 様々な人と関わり, 視野が広がる, 自分の成長に影響する等 8) 自発性5件; 自分で考える, やりがいがありそう, モノがなくても知力や体力を生かす, 面白そう, 応用力が要る等 9) 健康格差4件; 健康の不平等, 地域医療・経済格差が大きい等 10) 交流3件; コミュニケーション, 語学が大切, 協力しながら交流が素晴らしい, 看護が違って人と関わる大切さは同じ等 11) 福祉2件; 北欧は税金が高くサービス良, 国民の福祉観の違い 12) 疑問1件; 援助される側はどう思っているのか, 疑問等 13) その他 7件
問3. 今後、私たちにどんな役割が求められているのでしょうか? 具体的に記して下さい(複数回答で自由記述)	<p>回答95名 無記入13名 (回答件数110件)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病予防と教育42件; 予防や基本的看護の普及. 医療も大切だが健康教育が重要. 疾病回復と疾病予防が大切. 感染症, 公衆衛生知識の導入, 知識不足の改善, 女性や子どもの基礎教育の実施, 生活条件(生活用水などの確保)整備等 2) 視野を広げる18件; 広い視野の看護, 国境を越えた看護, 他国に関心を持ち医療の現実を知る, 世界の医療へ目を向ける, 日本と世界の医療を見つめ直す等 3) 他との連携と看護の役割16件; 他分野と連携が必要であり, その中でナースの貢献度が高い, 医療・看護の発展に寄与するボランティア活動もある等 4) 格差の改善12件; 誰でも同レベルの看護を受けられるように, 格差のない平等な看護, 高い知識をもった人は他国へ行き, 知識を分ける, 献金だけでなく知識や技術での支援等 5) 地域に合った方法10件; 地域の特性を知り住民に合った方法で行う, 相手を知ってその人に合った援助, 受け入れられる看護技術・方法で協力, 物資の提供と看護活動, 全てを伝えるのではなく, どうしたらよいかの考え方を伝え一緒に考える, 自立支援システム等 6) 国内貢献10件; 募金活動で国内貢献もできる. 物資支援, 現実を知り他へ発信する. 離島対策等 7) 自分で調べ学習する2件; 語学, 視野を広げる等
問4. 将来, 国際看護に就いてみたいですか?	<ul style="list-style-type: none"> • 就きたい 40名 • わからない 48名 • 就きたくない 16名 • 無回答 4名

「相手を通して自分も変わる、体力・知力を生かす、応用力、自分の成長に影響する」等の回答があった。

問3 について：1)42件にみられる「疾病予防と健康教育を住民に浸透させていく」等が最も多かった。2)18件では「視野を拡げる、国境を越えた看護、世界の医療に目を向け、日本の医療もみつめる」、3)16件では「他分野との連携、看護の知識、技術での貢献」等であった。4)12件では「誰でも同レベルの看護を受ける格差のない看護、知識を分け合う看護」等であった。5)10件では「住民に受け入れられる看護技術や支援、全てを伝えるのではなく考え方を伝え、一緒に考える自立支援」等の内容であった。6)10件は「国内でも貢献できる」等であった。

問4 について：将来国際看護に就きたいか、に対し、「就いてみたい」40名、「わからない」48名、「就きたくない」16名であった。「就きたくない」の理由は「自信がない、不安である」と答えていた。一方「就いてみたい」の理由は、「眼からうろこがとれた、国際協力の意味がわかった、無縁と思った分野だが興味が湧いた、様々な国の医療状況や日本の支援がわかった、世界の人が平等に医療や看護が受けられるよう願う、海外に出てみたい」等であった。

IV. 考 察

学生の関心事項と看護の役割について、回答件数の多かった内容を基に、下記1-4で国際看護に必要な視点と役割を改めて考察し、今後の授業の向上に繋げたい。

1. 疾病予防と健康教育の重要性

健康は基本的人権であり、誰もが享受しうるものであり、看護はその充足を目指す役割をもっている。多くの感染症が蔓延する開発途上国では、飲食物や衛生習慣等の生活条件が人の生命、生存に直結している。そのため看護師は生活の場に携わる専門職者として、人々が不健康に陥る前に、実現可能で効果的なケアを人々の生活スタイルに合わせて実践する必要性が高い。都市から遠ざかるほど、施設の未整備や人材不足等の厳しい医療環境があり、疾病予防の重要性は高く、生命のリスクに直結する。

また、国や地域によって、疾病の種類や頻度により問題解決の方法は異なる。そのために地域に出向き、地域の特性をふまえたうえで、住民の目線に立ち、どのような予防行動がとれているか、どのようにすれば改善できるのか、を住民と課題を共有しながら可能性を探っていく姿勢が必要になる。なぜなら健康認識や看護職の看護への捉え方も国や地域で違うため、日本のシステムや一律的な方法では通用しないことがあるからである。

相手の意思を確認しながら進め、現地の人々との人間関係づくりが看護師に求められる。すなわち個人、地域単位で生活様式を健康行動に応用させながら疾病予防に結び付ける。健康教育は、人の生活を基盤にした人間の基本的ニーズへの働きかけであり、制度や政策、人的・物的資源、環境等の資源を活用しながら人々の生活環境を整え、健康を取り戻す取り組みとして、看護が果たす役割は大きい。

2. 看護業務の違い、背景、他との連携

学生の多くが、看護業務の違いや保健水準の違いに関心をもった。2年生後期で一定の看護学を習得していることや、本学の理念等も影響していると考えられる。新鮮な気づきのみならず、これらは後述の看護師の役割に繋がる。

保健水準や看護業務の日本との違い、さらに社会構造や生活規範も違う国の人々と協力して、どのように働いていくことが可能だろうか。青年海外協力隊看護職OGの活動記録「世界を翔けたナースたち」(2002)では、多くの場合、現地の価値観と自身の価値観との間で葛藤が生じている。異なった環境により、これまで以上に自己アイデンティティや職業アイデンティティを意識せざるを得なくなるのである。日本の看護をそのまま持ち込む看護は受け入れられず、むしろ自分の看護(文化)を一時脇に置いて、相手の状況を理解しようという姿勢が必要不可欠である。

また、地域特有の健康認識や疾病の理解のされ方、社会のありよう、民族、地域、文化、行動様式等、多種の要因が健康問題の背景に存在している。身近な看護場面で、その人の生活の仕方や価値観、信条などを尊重しつつ、良い関係性を構築することで実践的な看護に繋ぐことができる。

昨今の国境を越えた疾病のグローバル化は、医療の立場だけで問題解決することは難しい。経済

不安や社会の脆弱性、格差や不平等は、精神的にも社会的にも良好な健康状態を得難くする。状況によっては紛争、難民、環境等を含めた包括的な視点が必要になる。そのため多様な視点からアセスメントを行い、健康問題の本質を問う。そのとき、他との連携は問題解決の糸口になる。他分野と協働しながらも看護がどのような役割により貢献できるかを追及することが必要である。国によって看護の役割に多少違いがあっても、役割の重要性は変わらず、健康の推進者として重要な人材であることに変わりないからである。

3. 世界の医療に目を向け、日本の医療もみつめる

問3の2) 18件「視野を拡げる必要性」にあるように、世界の国々の人と人が繋がり、国境を越えたグローバルな関係性の中で、知見の共有、分け合う看護、互いに学び合う看護が必要とされている。多様な文化や生活から学ぶ機会は、看護教育や看護サービスに還元されることが多い。複数の文化との接触で、職業アイデンティティが揺らぐことがあったとしても、共有する事柄も発見する。すなわち、違いを認識することは、自己のありようにも気付かざるを得なくなる。

外国人の同僚を迎える時代、互いの考え方を学びながら最善のケアを行うことが求められている。外国人看護師候補生の受け入れ(EPA協定)等で、他国の看護師と交流する中で、国内の新たな課題に気づくことがある。看護は、人間や環境、社会と関連しながら、人々の健康な生活を支える使命をもっている。すなわち国内外に目を向けることのできる複数の視野をもつことは、健康の促進者としての役割、看護の普遍的な役割を認識できる機会である。

4. 国際看護の未来に向けて

問1で、学生の関心は高かったが、問4で、「国際看護に就いてみたい」という学生は約半数であり、「わからない」という回答も多くみられた。看護基礎教育の時点での学生の率直な回答と考える。一方、身近にみえる形での機会が少ないことも一つにあげられる。地球規模の疾病や人の移動、様々な変化や価値観をつきつけられる現在、人々のそれらへの関心は高まっているものの、看護における具体的な解決策やプロセスは十分開発

されているとはいえない。また国際協力が一方向であったり、実質的な機会へのアクセスが限られている現状がある。

今後、国際看護の方向性として、当科目はあらゆる領域、あらゆる看護の場に共通する概念が含まれており、看護の学問的基礎として不可欠である。すなわち政治、経済、教育や環境等の他分野との連携、協調をふまえたダイナミックかつ地域の特性や文化の尊重、人間対人間の看護、看護の平等性、主体性等、重要概念を含んでいる。

地球規模で健康格差が広がる現在、国際看護の役割として、人の生命、生存、生活の質を重視し、倫理的課題をも含めたヒューマニティなあり方を追及する必要がある。

V. 結 語

学生は国際看護への関心が非常に高かった。さらに看護の幅広い役割まで捉えられており、全体的には関心と学びが導き出された。授業目的、内容に沿う回答が得られ、授業内容のキーワードが含まれていたことが確認された。今後、さらに知見を深め、学生個々が具体的な授業評価ができるよう授業目標や授業プロセスをより明確にし、教材評価を含めて、授業設計を行う必要がある。そのため、学生に学んでほしい事柄を整理し、さらに有効な評価が得られる調査表の作成が必要である。

異文化理解やコミュニケーション力等、国際看護は看護者として学ぶ事柄が豊富にある。視野の拡大のみならず、国内外に共通する幅広い看護、国内の実践にも生かされる看護についても教授内容を深めていきたい。

文 献

- Beverly Henry/上田礼子(2005): 国際保健看護(1-1), 看護の科学社, 東京.
- ICN基本文書, (2013年2月1日取得, <http://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn>).
- INFJ International Nursing Foundation of Japan (2000, 2008): Nursing in the World.
- 池上清子(2013): MDG 5の世界的潮流, Journal of international health, 28 June, 48-51.
- 黒木雅子(1996): 異文化論への招待, 26-27.

厚生労働省(2007)：看護基礎教育の充実に関する検討
会報告書。
国連開発計画UNDP(2007-2011)：生存状況；前進と後
退, Human Development Report.
国際看護研究会編 (1999)：国際看護学入門(1-1),
東京。
丸井英二, 森口育子(2005)：国際保健・看護, 東京
Madeleine M. Leininger／稲岡文昭 (1995):レイニ
ンガー看護論－文化ケアの多様性と普遍性, 211-219.

青年海外協力協会編(2002)：青年海外協力隊看護職
B22名, 世界を翔けたナースたち。
須藤恭子, 樋口まち子(2012)：看護基礎教育における
国際看護学実習の意義, 学生への意識調査, 看護教
育, 786-791.
WHOオタワ憲章／島内憲夫(1995)：Health promo-
tion, 31-35.
Wake M. M&TOLESSA C(2012)：下痢症を減らす,
INR158, 日本看護協会出版会, 20-24.